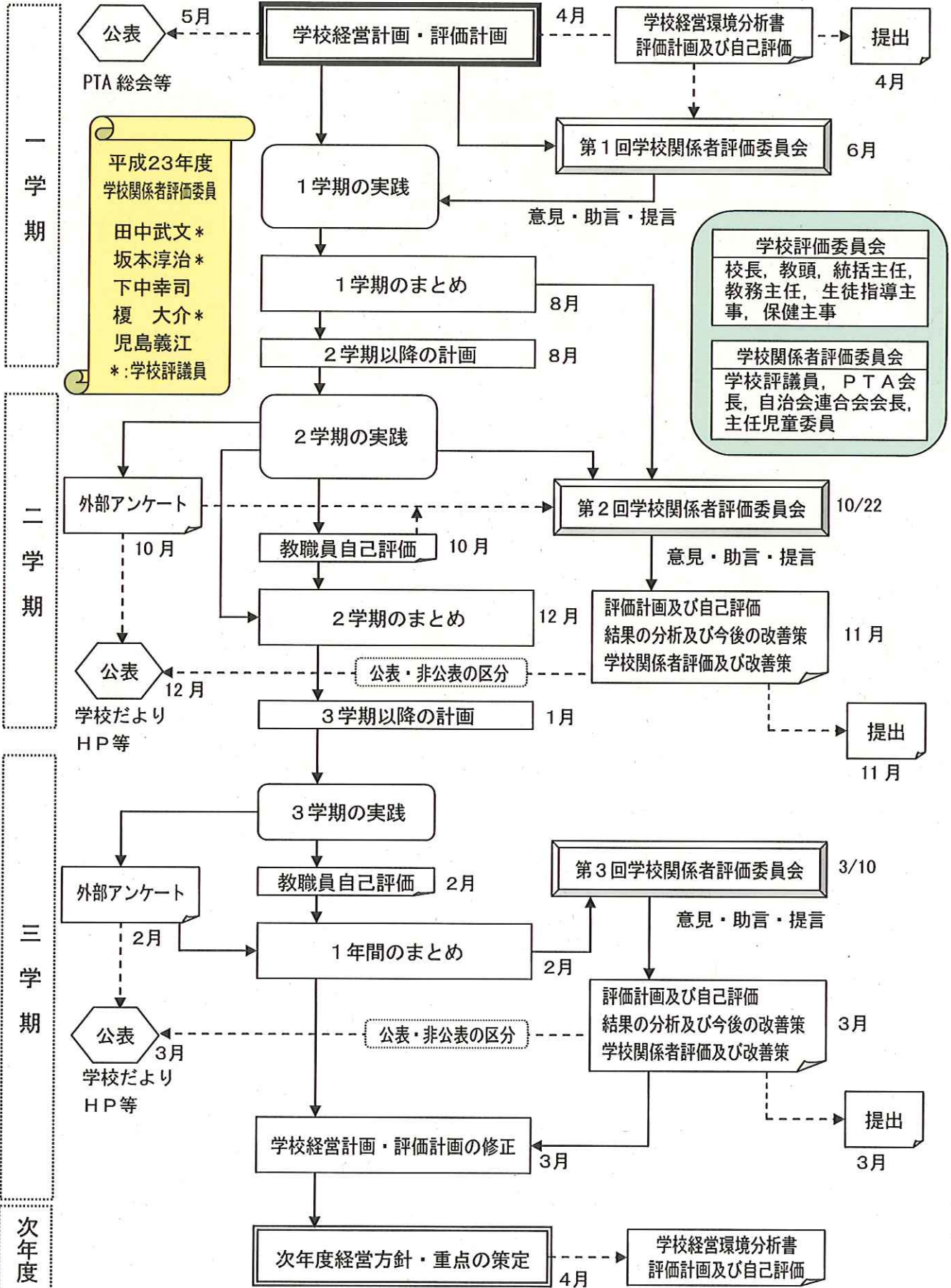


呉市立警固屋中学校 平成23年度学校評価システム

〈時期〉 〈生徒・保護者〉 〈教職員〉 〈学校評価委員会〉 〈学校関係者評価委員会〉 〈市教委〉



平成23年度 評価計画及び自己評価

(計画・**中間**・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	未来を創造する豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命)	生涯学習社会において、生徒に夢や希望を持って学び続けるための基礎・基本を身に付けさせることを使命とする
			〈ビジョン〉 (将来の学校像)	・共に学び合う教育活動を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることのできる学校を目指す。 ・基本的な生活態度を身に付け、個人、家庭、学校、社会へと目を向けることのできる生徒を育成する学校を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	習熟度別や少人数による指導方法を工夫して、きめ細やかな指導を継続しているが、学力の定着が十分とは言えない状況にある。家庭学習の定着を図る取組を一昨年度から実践しているが、十分な成果となっていない。小学校との連携を密にして、学習規律や家庭学習の取組を行うとともに、9年間で育成するための「学力向上マップ」や「自立ノート」の活用を探っていきたい。また、返事や挨拶などの基本的な生活態度に課題のある生徒も少なからずいて、徹底した指導を必要とする。
------------------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	10月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の定着を図る。 貫	○わかって楽しい授業づくりを行う。 ○効果的な乗り入れのための授業づくりを行う。	・教えて考えさせる授業づくりを進める。 ・学年別家庭学習時間を達成し学習習慣を身に付ける。 ・乗り入れ授業により児童の学習への意欲や理解力が向上する。	・授業の理解度の単元終了時における生徒の自己評価の肯定的な割合を80%以上にする。 ・学年別家庭学習時間の達成率を70%以上にする。 ・乗り入れ授業の児童の自己評価における意欲や理解に関する肯定的な割合を80%以上にする。	80% 70% 80%	86.1 56.6 90.8 94.6	107.6 80.9 113.5 118.3	A B A			
**	コミュニケーション力を育成する。	○大きな声で挨拶や返事ができる生徒にする。 ○授業において積極的な質問や発言ができる生徒にする。	・(立ち止まって)自分から挨拶をする指導を徹底する。 ・指名されたら大きな声で返事をする指導を徹底する。 ・静かに聞く態度を身に付ける指導を徹底する。 ・1時間の授業で1発言ができる授業形態を工夫する。	・(立ち止まって)挨拶をしている生徒評価を80%以上にする。 ・指名されて大きな声で返事をしている生徒評価を80%以上にする。 ・生徒の聞く態度の肯定的評価を80%以上にする。 ・生徒の自己評価における発言等の肯定的な割合を60%以上にする。	80% 80% 80% 60%	87.7 67.0 77.3 56.7	109.6 83.8 96.6 94.5	A B B B			
*	生徒の自尊感情を高める。	○生徒の自尊感情を高める取組を行う。	・事前・事後の活動を通して交流活動の意義と成果を実感させる取組を行う。	・異学年交流活動の事前事後の自尊感情に関する生徒の自己評価が4段階評定尺度で0.3ポイント以上上昇する。	+ 0.3 P	—	—	—			

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:(もう少し)<80 D:(できていない)<60

平成23年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	○挨拶をする生徒の割合は本来は100%を目標に掲げることが必要だと思うが、来年度は100%が設定できるようにしてもらいたい。 ○自尊感情については昨年度もこの0.3ポイント上げることは難しいことではないかという意見があったが、目標値としてはこうならざるを得ないと感じる。
目標達成のための方策の適切さ	A	○学力の定着のために様々な取組をされていることはありがたいことだと思う。 ○社会性の基本は、方策にもあるようにあいさつや返事、人の話を聞くことであると思う。
自己評価の結果と分析の適切さ	B	○家庭学習時間の目標達成率が昨年度に比べて伸びていることは良いことだと思う。 ○挨拶をする生徒となかなかしない生徒とに分けられる。時々、校門に立つが、顔だけでなくよく知っている生徒は挨拶をするが、そうでない生徒はしない場合がある。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○B評価の項目については、よく分析をしてこれからの半年間で成果を出すようがんばってほしい。 ○課題に対して、新たな取り組みを工夫していることはよい。今後も継続して取り組んでほしい。
その他		○学校全体としては、落ち着いていると思う。地域で気になる様子は少し聞いているが大きな問題はない。この状況を継続してもらいたい。 ○子どもや学級の課題は、保護者との連携が重要であると思う。保護者の意識を変える取組も必要だ。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○「学力の定着を図る」では、教えて考えさせる授業で充実感が得られるようにするとともに、教員が授業改善の視点を持って、取り組む。家庭学習習慣については、生徒への目標時間の意識付けの取組を継続する。 ○「コミュニケーション力を育成する」では、特に返事と発言の指導を徹底する。返事が小さい声であったり、できない生徒には繰り返しの指導を行う。発言については、肯定的な声かけ等の指導を行う。 ○「自尊感情を高める」では、2学期以降の異学年交流を中心に事後指導を大切に取組を行い、データを取り、目標値をクリアしたい。
--------------------	--